



ドライブインや宿の経営、農業、貸家業、山菜採りなどで忙しく過ごす石郷岡秀雄さん。「忙しいのが当たり前。逆に暇が怖いね」と話して笑う

昭和の風情を残す

仙北市角館町の国道341号沿いに立つ「雲沢観光ドライブイン」。敷地の一角にある24時間営業の自動販売機(自販機)コーナー・通称「ニーン」は、昭和の面影漂う空間。1972年頃から使い続けるうどん・ラーメンの自販機をはじめ、カップラーメン、スナック類、ジュースなど、新旧合わせて15台ほどの自販機のほか、年季の入ったゲーム機などがずらりと並ぶ。

あるじの石郷岡秀雄さん(64)が、隣の食堂で調理したラーメンとうどんを1杯ずつ自販機の中に補充する。地元の製麺所から仕入れたゆで麺に、ラーメンは緑の赤いハム、うどんは赤いエビ入りの天ぷらをトッピング。つゆは専用のボトルに入れて自販機の中にセットする。

家族で力を合わせて営業

自販機コーナーと食堂からなる

よりうれしい」とほほ笑む石郷岡さん。「毎日やることはたくさんあるけど、どれかをやめようとは思われないな。利用してくれる人がいる限りは」

宿の母屋は大仙市大曲にあった旧旅館、会食に利用する蔵座敷は横手市山内の大松川ダム建設地にあつた蔵、食堂は角館町内にあつた古民家で、これら歴史ある建物を移築して長年大事に使ってきた。それらの重厚な佇まいにも、一家が大切にしてきた客へのおもてなしの心がにじむ。

町のドライブイン

【雲沢観光ドライブイン・旅館 雲沢】 仙北市角館町雲然字山口66-12 TEL.0187-55-1510

暑い夏の昼下がり。国道沿いのドライブインには冷たいジュースに涼を求める人の姿があつた。飲み物や食事を楽しむ人、懐かしの自販機を求めて訪れる人、宿でゆっくりする人…。ここはさまざまな人がひと息ついてくつろいでいく、町の隠れたオアシスだ。

商品補充、田んぼの草刈りや水の管理を担当。義理の母イヨ子さんは86歳にして自ら進んで自販機コーナーのそうじを担う。

客の笑顔が励み

旅館は工事関係の長期利用やビジネス客、釣り客などが多く、数カ月から2、3年の宿泊も。毎日言葉交わすうち、家族ぐるみの付き合いになった客や、ここでの暮らしが気に入って関東から移住した客もいる。訪れる客が笑顔でいる姿、ホッとした表情でくつろぐ姿を見ると「何



「雲沢観光ドライブイン」のオープンは1972年。義理の父である先代が始めた。北秋田市森吉出身の石郷岡さんは東京で3年間板前を経験した後、結婚を機に76年から妻の実家の家業に就いた。87年には同じ敷地内に旅館をオープン。当時はドライブイン前の国道の交通量が多く、冬はスキー客、春は花見客、夏

は鮎釣り客が全国から押し寄せた。石郷岡家ではほかに貸家業や稲作を行い、一時は豆腐も製造していた。「訪れる人をもてなしたい」。その一心で、家族経営で力を合わせてさまざまな商売を続けてきた。

先代、そして妻亡き今は、2人の息子が食堂を切り盛りする。石郷岡さんは、旅館業と貸家、自販機の